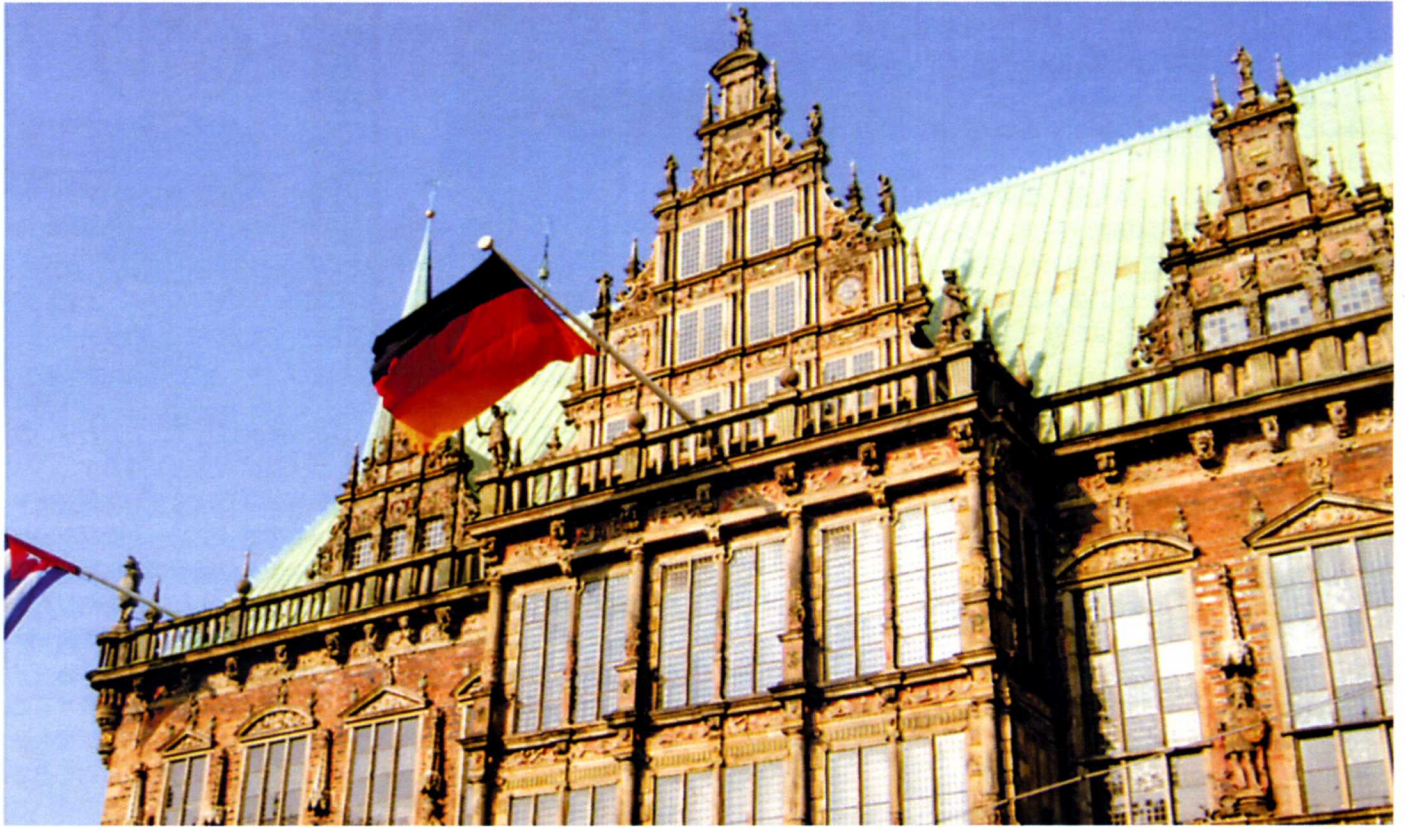


わはの歯俱樂部

平成19年3月 13号
編集・発行
トナミデンタルラボラトリー



ドイツ研修旅行において

PART.2

トナミデンタルラボラトリー 黒田 理絵

◆二日目◆

この日の午後は川島先生の特別講義も日程にはいっていません。先生は金合金の熱処理（軟化熱処理・硬化熱処理）に関して先生の著書にもあるテクニックを紹介され、BEGOの方々へ衝撃と感動を与えました。（こんなテクニックがあったんだ！）



また実技においてはワックスアップから埋没・鋳造と進みました。この日のパーシャルデンチャー用合金（今回は金合金について）の講義ではデンチャーに適した合金について、これからの金属種類別における需要→（化学的・生物学的な金属に対する要求に準ずる）

BEGO社製Platilloyd M(金合金)の成分・物性・金合金キャストパーシャル製作にあたっての注意点厚みを持たせること、熱処理による硬化(永久変形を防ぐ要点として)と処理法に関して聞きました。

◆三日目◆

鋳造機はBEGO社のものを使い、テクニカルデータをプリントしたもので、鋳造における作業の検証ができました（鋳造時の金属温度記録）そして熱処理と研磨をして研修が終了となりました。

実習時の話ですが、私がシリコン印象に模型材を流しているときに川島先生はストップと言われ、BEGOのインストラクターのハイコーさんはそのまま流して!!と二人同時に違う指示を出されて"?'になった場面がありました。その真意は、パイプレーターをずっとかけたまま流し込むと、均一だった模型材の粒子が下に沈んでしまう為ということでした。私も少し至らなかったなと思うのですが、ここがやはり日本人の作業に対する繊細さ・心配り・こだわりの表れであり、世界のトップレベルをキープするためには、欠くことのできない違いだと思います。

◆終わりに◆

私自身もワックスアップを手伝ってもらいながらも、なんとか研修を終了することができました。一緒に行った川島先生やメンバーの皆さん、インストラクターのハイコーさん、通訳の信子さん、たくさん助けてもらい本当に感謝しています。またこの機会

